

別海町美原の女性より

『毎回、乳房炎に悩まされています。レンサ球菌とブドウ球菌。セファメジンとハイポリ両方効くことになっているのに、両方効かないのはどうしてなのでしょう。パケットの期間が徒労に終わって力が抜けます』

この問いに根室南部事業センター第一家畜診療課の辻 健一獣医師が答えます！

今回、細菌検査に基づき乳房炎軟膏により治療しても再発を繰り返したりし、治りにくいという質問がありましたので回答したいと思います。

先日、その牧場に伺い、実際その牛を診させていただきました。一頭は、しこり、ぶつも全くなくPLEスターをかけてはじめて異常がわかる牛でした。もう一頭は、しこりが軽度確認でき、ぶつもまだ出ていました。両牛とももう治療は諦め、罹患乳をしほりすてているということでした。再度細菌検査をし、原因菌を確認してみたところ、連鎖球菌（以下OS）による感染とわかりました。OSは、現在、難治性乳房炎の原因菌ナンバー1であると言っても過言ではありません。その理由は、感染部位です。乳汁中に感染する菌（大腸菌、環境性ブドウ球菌）と違い乳腺上皮まで感染がおよぶため乳房炎軟膏が届きにくいのです。OSの中でも約3〜4割は、更に深部に感染するタイプがありより治療を難しくしています。また、このタイプは、抗生物質に対しても他のOSに比べより強い抵抗性をもっています。さらに、細菌検査の結果の感受性あり（S）なし（R）は、培地上で細菌と抗生物質を直接暴露させての結果なので実際、乳房の感染部位で

の効果とは必ずしも一致するものではありません。炎症による、ぶつや硬結なども抗生物質の感染部位への到達を妨害します。このことは、OSによる乳房炎にかぎらないことです。

治療に関しては、期間も長く（5日以上）必要と言われています。また、乳房炎軟膏については、組織への浸透性の高いものや乳汁中で薬剤が拡散しやすいものができています。このことをふまえて難治性乳房炎を治療するには、原因菌の特定、ぶつなどの炎症性物質の排出、治療期間、浸透性の高い抗生剤の選択を考慮する必要があるとおもいます。

最近では、シヨート乾乳という方法も難治性OS菌に効果あると言われています。この方法は、乳房炎軟膏を1回注入し、3日間搾らない方法です。罹患乳房内に免疫細胞や、免疫誘導物質をためて除菌する考え方です。ある報告では、治療後2週間で難治性OS乳房炎の6割が治癒したとのことでした。しかし、いずれも特効薬ではありません。治療期間も長く経済的損失も大きく治るともかぎりません。ある程度の覚悟は、必要だと思います。やはり、予防が大切になります。